



留日同学会・商工クラブ 共同「桜」植樹

2月22日に上海市虹口区の魯迅公園で、留日同学会と上海日本商工クラブの共同で桜の植樹が行われた。2009年12月に第1回の桜植樹が行われ、その後不定期であるが回を重ね、今回で4回目の植樹となった。

近年、桜の花は中国の人たちにも好まれ、日本の桜の開花に合わせて、日本の桜の名所を訪れる中国人観光客が多くなっている。上海市内でも、顧村公園、魯迅公園など、桜の名所といわれる公園も出てきている。

上海日本商工クラブと留日同学会(*1)では、2009年から魯迅公園で一度に10本ずつの桜植樹を共同で行っており、今年2月22日には第4回目の桜植樹が行われた。この植樹では、留日同学会と商工クラブで10本の植樹を行うと、魯迅公園側でも同じく10本の桜を植えてくれ、これまでに合計で約80本の桜が植えられた。

当日は、魯迅公園が工事中で、



植えた桜を背景に記念写真

一般客には開放されない中で行われた。商工クラブ側からは、山本・文化交流委員長と事務局スタッフに加え、長崎県事務所の方など数名のみの参加となったが、留日同学会からは、東会長をはじめ数十名が参加し、十数本の新たな桜の木が植えられた。

植樹の後には、近くのレストランで留日同学会の年會が開催され、日本側からは、在上海日本国総領事館の高山領事、日中經濟協

会上海事務所の横山所長、群馬県の代表なども加わり、大いに交流を深めた。

なお、今回植えられた桜は公園内にあるが、これまでに植えられた桜は、地下鉄8号線の「虹口足球场」駅1番出口の付近にある。3号線の「虹口足球场」駅からも近く、開花の季節になれば、東江湾路沿いの一角に桜が数十本きれいに咲いているの見えるはずである。機会があればぜひご覧いただきたい。

留日同学会では、最終的に1,000本の桜を植えたいという希望を持っており、当商工クラブとしても、日中交流の証しとして、今後も協力していく所存である。



桜を植える山本委員長(左)と東会長(右)



スコップを持つ参加者

(*1)留日同学会の正式名称は、上海欧美同学会・留日分会である。日本に留学し、留学先大学で修士・博士を取得した人たちに原則として会員資格が与えられる。現在、留日同学会の会員は、1,300名を超え、日本との交流の上海側窓口として、最も信頼できる団体の一つである。